

## 21. その他の思想家

○**国家主義**…国家に最高の価値をおき、国家権力が生活のあらゆる場面で統制を及ぼすことを肯定し、その重要性をみとめる思想

- 明治前期—ナショナリズムと結合した国権論として登場(啓蒙思想・民権運動)
- 明治後期—帝国主義国家としての日本の確立・発展のイデオロギー(日清・日露W)
- 大正期—社会主義運動への反動
- 昭和期—**超国家主義**としてのファシズム支配のイデオロギー

天皇制と  
密接に関係

・**超国家主義**…極端な国家主義。対外的には、排外・侵略主義をもち、対内的には個人の自由と、国家への強制的従属を特色とする

□**北一輝**<sup>きたいつき</sup>[1883-1937]大正・昭和初期の国家主義運動の理論的指導者。青年期は社会主義に関心をもったが、その後、革命家としての道を歩み、中国の辛亥革命に参加した。大正デモクラシーの波の中『日本改造法案大綱』を著し、超国家主義を主張するに至った。北は、天皇と国民を隔てる元老・財閥・政党などをクーデターと軍部独裁で除去した、天皇と国民が直結する政府を理想とし、国家改造を目指した。1936年の2・26事件は、彼の思想の影響を受けた青年将校によって起こされたものであるが、北はその首謀者として処刑された

- ・**国体**…万世一系の天皇が神聖不可侵の存在として統治する政治体制。昭和前期には、国体の護持という名目で、様々な活動が弾圧され、滅私奉公を強いられた
- ・**軍国主義**…政治や経済、教育などのあらゆる分野で軍事的価値を優先させる思想

### ○現代の思想

□**丸山真男**<sup>まるやままさお</sup>[1914-96]昭和-平成期の政治学者・政治家。自身の2度の従軍経験から、戦後、ファシズムの問題をとりあつかう。日本の近代意識の源泉を近世の儒学思想にみつけ、現代日本の政治にも鋭い批判と分析を行った。

□**石橋湛山**<sup>いしばしたんざん</sup>[1884-1973]大正・昭和期の評論家・政治家。1911年、東洋経済新報社に入社。自由主義と宗敎心に基づくヒューマニズムを背景に、現実的な実践につながる評論活動を行った。特に、当時の日本の国家主義の独善性、対外侵略、植民地主義などを批判し、文化や経済の分野で日本の地位を高める小日本主義を唱えた。また、晩年首相にもなった

#### センター問題に挑戦! No.21 (2007年本試) [難]

近代日本がなぜ軍国主義と戦争の惨禍に行き着いたのかを問い、戦後の日本に民主社会を確立する道を模索した思想家に、丸山真男がいる。彼が戦後の日本人の課題と考えたことを説明した記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 西洋の哲学と東洋の儒教を融合させ、世界に通じる普遍的な道徳を日本と言う個別の場で実現できる、新しい国民道徳を確立しなければならない。
- ② 外来の思想をとって伝統を捨てるのではなく、逆に伝統に固執するのでもない、自己本位の能力に基づいた内発的開化を推進しなければならない。
- ③ 日本という風土の中で培われてきた文化と歴史を尊重し、日本民族の独自性を守りつつ、西洋の学問・技術の長所を採用していかなければならない。
- ④ 他者を他者として理解し、また自分の中に巣くう偏見につねに反省の眼を向けることのできる、自主独立の精神をもつ個を確立しなければならない。

[No.20の答① ①×まれびと⇒折口信夫の考え方 c.f.#2]

[No.21の答④ ①×国民道徳⇒西村茂樹 ②×内発的開化⇒夏目漱石 ③×風土⇒和辻哲郎]

ゑんちやくいざクンゾくわうこくノこころざしヲしらんヤ

「燕雀何知鴻鵠志」 センター倫理、頑張ってください。